

気象変動に対応した夏秋ピーマンの追肥時期の目安

農業研究部

1. 研究の背景

長期にわたって連続的に収穫を行う夏秋ピーマン栽培では、根の活力を良好に維持し、樹勢を維持するための肥培管理が生産安定にとって最も重要となる。

そこで、従来の勘と経験による肥培管理を見直し、作業及び肥効の効率化を図るために、生育に適した養分供給を図る追肥の肥培管理体系を確立する。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

表1 追肥開始時期別施用量

施用月	3月		4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月			施肥窒素量 (kg/10a)		
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中		下	
4月追肥開始						4	3	4	5	6	10	12	12	15	14	15	16	10	10	9	8	9	7	5	17.4
5月追肥開始							5	7	9	6	10	11	12	14	14	15	15	10	10	8	8	9	6	5	17.4
6月追肥開始										11	15	18	12	15	14	15	16	10	10	9	8	9	7	5	17.4
7月追肥開始													16	19	18	19	20	14	14	13	11	12	10	8	17.4

※追肥:トミーブラック N:P₂O₅:K₂O=10:4:6

※基肥:ピーマンファミリー875 N:P₂O₅:K₂O=16:14:10(kg/10a)

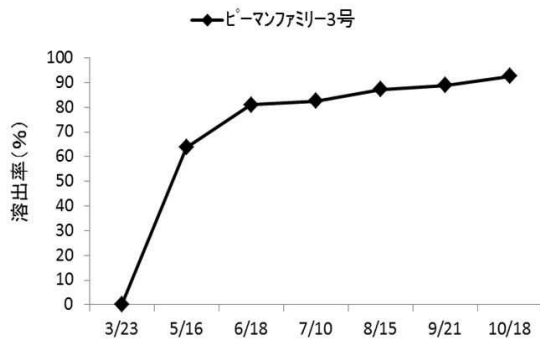


図1 肥料の窒素溶出率

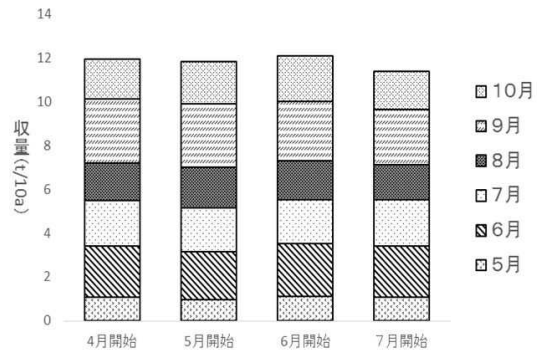


図2 追肥開始時期別可販果収量

注) 可販果収量の年間合計量をTukey法により検定、5%水準で有意差なし(n=3)

- ・スター肥料のピーマンファミリー3号は6月上旬まで肥効が持続している(図1)。
- ・4月追肥開始から7月まで、追肥開始時期を遅らせて検討した結果、5月・6月追肥開始区は慣行の4月追肥開始区と同等の収量が得られた。しかし、7月追肥開始では、4月追肥開始と比較して減少する傾向があった(図2)。

3. 期待される効果

- ・スター肥料のピーマンファミリーの肥効が6月上旬まで持続していることから、5～6月まで追肥開始時期を遅らせても、4月追肥開始の慣行区と同等の収量が得られる。
- ・追肥開始時期を遅らせることで、追肥作業回数の減少及び肥料効率の改善につながる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 土壌・環境チーム

TEL: 0974-28-2072

住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8